

国内外の保健機関や研究者が調査中のため、本文書の公開日から情報が大きく更新されている可能性があります。最新の情報をご確認ください。

ロシア連邦イルクーツク州における原因不明の重症肺炎について

国立健康危機管理研究機構

2026 年 10 月 9 日

状況の概要

ロシア連邦イルクーツク州のペスト防疫研究所職員 1 名が、重度の肺炎のため 9 月 29 日に入院後、10 月 2 日に死亡したと報道された。

本事例について、一部メディアは当該職員が肺ペストにより死亡した、業務中にペスト菌を含んだ試験管の破損事故があった、などと報じているが、ロシアの公衆衛生当局は 10 月 4 日、職員の死因を原因不明の肺炎とし、職員からは業務に関連する病原体は検出されず、研究所内の事故もなかったと発表した。

ロシア政府公衆衛生当局により、接触者約 200 人が特定され、医療機関等で健康観察下にある。現時点で接触者に症状を呈した者はいないと報じられている。また、地域において重症肺炎を発症した者が増加しているといった報道もない。

世界保健機関(WHO)は現在入手可能な情報に基づく公衆衛生上のリスクについて、イルクーツク州では中程度から低い、ロシア国内では低い、WHO 欧州地域では非常に低いとし、新たな情報が入り次第、評価を更新するとしている。

リスク評価

本事例は、肺ペストによる重症肺炎とする報道はあるものの、ロシア政府公衆衛生当局は原因不明としている事例である。

原因不明であるが、当該症例の接触者が特定され、健康観察が実施されていること、二次感染者が確認されていないこと、周辺での重症肺炎の増加を示唆する情報もないことから、当該症例からの拡大を示唆する所見はなく、現時点の情報からは、日本への影響は限定的である。

一方で、原因となった病原体は特定されていないことから、今後の調査結果や地域での呼吸器疾患の発生状況に関する続報を引き続き注視する。

参考文献

WHO:<https://www.unognewsroom.org/story/en/3289/irkutsk-suspected-plague-death-who>

在ロシア米国大使館:<https://ru.usembassy.gov/health-alert-u-s-embassy-moscow-russia-october-6-2026/>

ECDC:<https://www.ecdc.europa.eu/en/news-events/ecdc-closely-monitoring-situation-following-case-pneumonia-unknown-origin-russia>